

|      |   |    |    |      |   |           |    |
|------|---|----|----|------|---|-----------|----|
| 授業科目 | *解剖生理学実習 (B クラス)  |    |    |      |   | 実務家教員担当科目 | -  |
| 単位   | 1   | 履修 | 選択 | 開講年次 | 1 | 開講時期      | 後期 |
| 担当教員 | 岡部 明仁   |    |    |      |   |           |    |
| 授業概要 | 正常な生命活動の仕組みについての理解を深めるため、前期で学んだ解剖生理学及び後期で学ぶ応用生理学の講義と平行して、血液・体液、循環器、呼吸器、感覚器など日常生活に必要な諸器官についての解剖学および生理学の実習を行う。この科目は1回あたり1.5コマで実施する。 |    |    |      |   |           |    |

| 学生が達成すべき行動目標 |   |
|--------------|---|
| 標準的レベル       | <ol style="list-style-type: none"> <li>循環器、呼吸器、感覚器に関連する主な骨と筋肉について、名称を聞けば大体の位置がわかる。(DP1-1、DP1-2)</li> <li>血液、循環器、呼吸器、感覚器の基本的な役割を把握している。(DP1-1、DP1-2)</li> <li>実験結果をグラフ化することができる。(DP2-1、DP4-1)</li> <li>科学レポートの体裁に従ってレポートを書くことができる。(DP2-1、DP3-1)</li> </ol> |
| 理想的レベル       | <p>標準的なレベルをすべて達成したうえで、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>循環器、呼吸器、感覚器に関連する主な骨と筋肉の名称を言える。</li> <li>血液、循環器、呼吸器、感覚器など臓器について、基本的な構造と働きについて説明できる。</li> <li>実験結果について、独力で考察事項を考え、調査してレポートを作成することができる。</li> </ol>   |

| 評価方法・評価割合        |          |                |
|------------------|----------|----------------|
| 評価方法             | 評価割合（数値） | 備考             |
| 試験               | 0        |                |
| 小テスト             | 0        |                |
| レポート             | 90%      |                |
| 発表（口頭、プレゼンテーション） | 0        |                |
| レポート外の提出物        | 0        |                |
| その他              | 10%      | レポートの提出状況を考慮する |

| カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング |   |     |   |     |   |     |             |
|-------------------------|---|-----|---|-----|---|-----|-------------|
| DP1                     | ○ | DP2 | ○ | DP3 | ○ | DP4 | ○           |
| 学習課題（予習・復習）             |   |     |   |     |   |     | 1回の目安時間（時間） |
| レポートの作成                 |   |     |   |     |   |     | 0           |

| 授業計画 |                            |
|------|----------------------------|
| 第1回  | 感覚器実習 1<br>皮膚の感覚器、皮膚の組織観察  |
| 第2回  | 感覚器実習 2<br>味覚閾値の部位差、舌の組織観察 |

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 第 3 回                 | 最大酸素摂取量 1<br>踏み台昇降運動、自転車エルゴメーターの体力測定モード   |
| 第 4 回                 | 最大酸素摂取量 2<br>自転車エルゴメーターによる三段階負荷法  |
| 第 5 回                 | 循環器実習 1<br>毛細血管の観察、指尖脈波、パルスオキシメーター、心音   |
| 第 6 回                 | 循環器実習 2<br>血圧・心電図の測定  |
| 第 7 回                 | バーチャルスライドによる組織観察<br>消化器系及び神経系   |
| 第 8 回                 | 上皮組織の観察 1<br>一重層扁平上皮、単層扁平上皮、移行上皮ー   |
| 第 9 回                 | 上皮組織の観察 2<br>一単層立方上皮、単層円柱上皮、多列線毛上皮ー   |
| 第 10 回                | フリッカーチェック 1<br>ークレペリンテストー   |
| 第 11 回                | フリッカーチェック 2<br>ー書写ー   |
| 第 12 回                | ・フリッカーチェック 3 データ整理と t 検定による検証<br>・バーチャルスライドによる眼球の構造観察   |
| 第 13 回                | ・ギムザ染色による血球観察 1 (バーチャルスライドによる観察)  |
| 第 14 回                | 解剖実習見学前の倫理教育と行動上の留意点 (看護学科 定永先生)  |
| 第 15 回                | 1. ペーパークラフトを用いた人体解剖図作成、2. 人体解剖実習見学 (於<br>九州歯科大学) 1 または 2 のどちらか選択  |
| テキスト                  | 実習書を配布する。<br>青峰正裕他 イラスト解剖生理学実験 (東京教学社)<br>坂井建雄他 系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能 1 (医学書院)   |
| 参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介 | 教科書の他、それぞれの実習に即したプリント等を配布する。<br><br>坂井建雄他監訳 「プロメテウス 解剖学アトラス」(医学書院)<br>小澤瀞司他監修 「標準生理学」(医学書院)<br>藤田恒夫他著 「標準組織学 総論」「標準組織学 各論」(医学書院)<br>坂井建雄他訳 「カラーアトラス 顕微鏡写真で見る細胞組織学」(メディカル・サイエンス・インターナショナル) |
| 課題に対するフィードバックの方法      | 提出されたレポートの評価にあたっては、オリジナリティー、グラフの描き方、学習意欲、レポートが他人に読まれることへの意識の有無などを主な評価対象とします。<br>レポートはコメントを付けて返却します。   |
| 学生へのメッセージ・コメント        | ・毎回のレポート作成にあたって、最も重要なことは教科書に書いてあることを探し出すこと。次に参考書、インターネットによる情報検索などによる、関連した学習課題についての自己学習が必要となります。   |

・実習は一期一会です。極力欠席することができないように努力してください。実習を欠席するとレポートの作成ができないため、その実習のレポート点および出席点が無くなります。気を付けてください。

・他人のレポートをコピーしたことが判明した場合は、カンニングとみなしますので十分注意してください。

